

# 平成27年度 学校評価実施報告書

## 3 2回目評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定</li> <li>各項目にねらいを定めた取組の計画・実施</li> <li>取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート実施結果、その他指標の結果について整理</li> </ul>		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自己評価</th> </tr> <tr> <th>評価日</th> <th>平成28年3月1日</th> </tr> <tr> <th>評価者・組織</th> <th>学校評価委員会</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>分析 (成果と課題)</th> <th>自己評価に対する改善策</th> </tr> </tbody> </table>	自己評価		評価日	平成28年3月1日	評価者・組織	学校評価委員会	分析 (成果と課題)	自己評価に対する改善策		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">学校関係者評価</th> </tr> <tr> <th>評価日</th> <th>平成28年3月3日</th> </tr> <tr> <th>評価者(いずれかに○)</th> <th><del>学校運営協議会</del> 学校評議員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>学校関係者評価による意見</th> <th>学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策</th> </tr> </tbody> </table>	学校関係者評価		評価日	平成28年3月3日	評価者(いずれかに○)	<del>学校運営協議会</del> 学校評議員	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
自己評価																									
評価日	平成28年3月1日																								
評価者・組織	学校評価委員会																								
分析 (成果と課題)	自己評価に対する改善策																								
学校関係者評価																									
評価日	平成28年3月3日																								
評価者(いずれかに○)	<del>学校運営協議会</del> 学校評議員																								
学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策																								
1	確かな学力	基礎基本の定着を図る取組  少人数授業の授業改善 地域連携した検定の実施	学プロ・全国学テの結果	理科を除き、全国学テで平均を上回る。学プロでは全市平均より、どの学年も数学は高く、他はほぼ平均並みとなっている。	⇒	少人数授業やみらスタの実施により、学習に遅れがちな生徒への対応はできつある。ただ、教科によって学力の定着度に大きな差があり、学習規律が保てない教科担当者への研修が課題である。ALを実践するための「学びの共同体」の取組は成果はあるが、教師によって、十分に生かされていないことは課題である。	学力向上にむけて、個々教師力の努力の必要性は言うまでもないが、「学びの共同体」の取組の継続により、さらなる授業力向上をめざしていく。図書委員会の活動を活性化とともに、授業での図書館利用をさらに推進していく。みらスタをさらに充実させて、学習に遅れがちな生徒の学習を保障していく。	⇒	学力向上の取組については、評価できる。授業の充実をさらに進めてほしい。 ・家庭学習を充実させる取り組みが必要ではないか。 ・スマホ等が学習の妨げとなっている。使い方を規制するように保護者に	生涯学習を見据えて、各種の検定試験を校内で実施できるように、協力を継続していく。 ・土曜学習についても学力向上部会を中心に支援を継続し、学習習慣の獲得につなげていきたい。															
2	豊かな心	積極的生徒指導の取組  読書習慣の定着 朝読書の継続 図書館教育の充実	学校生活を通じて読書にしたむようになってきた	朝読書の定着は十分であるが、36.7%が否定的な回答となってきた	⇒	校内でのアンケート集計結果より、積極的な生徒指導の効果は、現れ始めている。ただ、思いやりや寛容という面が弱く、人間関係のトラブルが発生したこともある。学校祭等は、集団の質を高め、社会性を高めることに繋がったと考えている。規範意識は高まってきているものの、学年によって、その成長度合いに差があることは課題である。	規範意識について、さらなる向上を図るために、すべての学級でクラマネを活用した学級づくりをさらに進めていく。道徳教育の充実を図っていくため、道徳教育推進期間での取組をその契機としていく。伝統文化教育について、進めることは感性を豊かにするなど、心の教育に役立つので充実させてほしい。	⇒	・携帯端末等で仲間はずれが起こるようなことがあるので、生徒や保護者に使い方を指導することも必要である。 ・生徒の教師に対する態度に節度をもたらすことが必要である。 ・伝統文化教育について、進めることは感性を豊かにするなど、心の教育に役立つので充実させてほしい。	伝統文化教育の充実も踏まえて、地域ふれあい部会は、地域と連携した体験活動をさらに推進していく。 ・健全育成部会は、校区内のパトロール等を今後とも協力していく。															
3	健やかな体	自己の生活習慣を見直し、改善する取組  健康な体づくり	保健委員会の取組の充実 保健だよりの発行	学校は自分の健康に関する情報を適切につかんでいる	⇒	部活動の活性化や欠席数の減少などは、成果と考えている。テレビの視聴時間とスマホやテレビゲームの使用時間がアンケート結果により、他校よりも長いことがわかった。視力異常への問題と生活习惯の改善が必要である。	家庭生活において、スマホ等の使用時間等について、保護者や生徒に見直してもらうための啓発活動を行っていく。また、検診の結果を活用して、視覚異常等の改善を促すため、保健だよりを充実させて	⇒	大麻の問題が京都市で発生しているが、スマホ等が影響しているので、薬物乱用防止とともに、携帯端末の正しい使い方の指導も必要である。 ・健康を害する恐れのあるスマホの依存性が心配である。	健全育成部会は、校区内のパトロール等を今後とも協力していく。															
4	独自の取組	小中一貫教育・地域連携の推進  情報発信の充実 学級経営力の向上	三校校長会を中心とした連携強化 保護者アンケート「プリント等で、学校からの情報が保護者に伝わるこ向上した。」 学級の状況を把握した学級経営	地域・保護者・学校の協力関係の観察 保護者アンケート「プリント等で、学校からの情報が保護者に伝わるこ向上した。」 クラマネシートの分析	三校校長会とともに保幼小中連携会議を年3回実施して、連携を強め	⇒	三校合同の学校運営協議会の実施や保幼小中連絡協議会の活性化は、地域連携に大きく役立った。また、HPの更新も多くでき、学校での様子をしっかりと発信できた。学級経営力は、担当者によって、かなりの差が見られたので、この向上にむけて、さらに改善が必要である。	小中一貫教育や地域連携は、前年度に比べて活性化されてきていいるので、これを継続していく。とくに、伝統文化教育の推進するなかで、これらのこと推进させていくことが重要であり、この方向で取り組んでいく。「学級・学年だより」とともに、HPの更新と「学校だより」等の発行を継続発展させていく。クラマネの分析結果をさらに活用していく。	⇒	三校合同の学校運営協議会は意義あるものと思われるので、継続してほしい。 ・学校だより等にデータが多すぎるとわかりにくい。 ・メール配信は有効である。	今後も三校合同(校下小学校2校と本校)での運営協議会の実施に協力する。 ・学校運営協議会として、小中一貫教育や地域連携をさらに推進するために協力していく。														

## 4 総括・次年度の課題

- みらスタ・土曜学習・検定試験等の実施については、効果があるものとして継続していく。学力向上について、授業の充実を目指していくとともに、家庭学習をさらに定着させることに取り組んでいく。
- 伝統文化教育など本校の特色について、様々な場で発信してきたので、保護者や地域に一定の理解が得られている。また、これについての協力も得やすくなつた。
- 小中一貫教育を推進する中で、学校評価についてもアンケート等で連携する必要だと考えている。
- 保幼小中連携会議のさらなる活性化を推進し、地域連携と繋げて、地域の小中学校として教育力を高めていきたい。